

福祉のひろば

11

2014

特集

第20回社会福祉研究交流集会inおおさか
生活を変える、福祉を変える、社会を変える
——いのちと平和を守るために——



ひろばトーク

会津電力株式会社 代表取締役社長

さとう
佐藤

や え も ん
彌右衛門さん

.....
原発にたよらない福島を、次世代にのこすために

編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21
<http://www.creates-k.co.jp>

クリエイツかもかわ



TEL 075 (661) 5741
FAX 075 (693) 6605
送料何冊でも240円

●発達保障の視点を高齢者介護に、
障害者の高齢化に新たな支援のあり方を探る！

未来につなぐ

療育・介護労働

生活支援と発達保障の視点から

北垣智基

鴻上圭太 ◆ 編著

藤本文朗

執筆者 渋谷光美・杉本健郎・
藤井伸生・坪田和史・
河野勝行・池上惇ほか

腰痛対策の厚労省ガイドライン改定と具体的な移動介
助、医療的ケア、人材養成・研修、福祉文化論、介護労働者
へのメッセージなど、課題を総合的に提起。
2200円＋税

●「この子らを世の光に」からバトンを受けて――

生きることが光になる

重症児者福祉と入所施設の将来を考える

国森康弘・日浦美智江・中村隆一・
大塚晃・社会福祉法人びわこ学園 ◆ 編著 2000円＋税
わが学園50年！

いのちや存在そのもの、教育、発達保障、
人権、地域生活支援の視点から重症児者
支援の展望を探る。療育の歴史を振り返
り、入所施設・機能の今後の展開から考
える新たな重症児者支援。



第20回社会福祉研究交流集会 in おおさか

——いのちと平和を守るために——
生活を変える、福祉を変える、社会を変える

げんこつ節

へ力揃えば踏石さへも

上げてゆるがず ゲンコツ 霜柱

ドクシンロ（独清露）

フツエーバー（仏英米）

シツケイキワマルゲンコツバイ

不知山人（添田啞蟬坊）詞



集会第一日目は、エル・おおさかで8月30日午後に行われました。大阪をはじめ、全国から集い、大阪から社会福祉の狼煙^{のろし}を上げようと熱気のこもった集会になりました。記念講演の
まごさき うける孫崎 享さん（写真、元外務省国際情報局長）は、「対米関係から日本の支配構造、平和、国民のいのちとくらしをどうみるか」を熱く語られました。

今年新年号に登場したぐりいと、(社会福祉法人かがやき神戸)が、全体会のオープニングに登場。クラウンの誕生秘話や、目からウロコのエピソードを、物語形式のパフォーマンスにして公演。鍛えられたパフォーマンスとその和やかな雰囲気に会場がいきに、あたたかくなりました。

第20回
社会福祉研究交流集会
in おおさか

生活を変える、福祉を変える、社会を変える

—いのちと平和を守るために

011811211・011211・011211・011211・011211・011211・011211・011211・011211・011211





いのちと平和を守るリレートーク。コーディネーターは、石川康宏さん（神戸女学院大学、総合社会福祉研究所理事）。

当事者運動を粘り強くとりくむ大阪の実践、福島から母子避難して原発賠償関西訴訟原告団代表として活動する森松明希子さん、八尾の保育所保護者会の元気で明るく地域にひろげた運動などを報告。石川さんは「自らの福祉実践を一生懸命するだけでは、福祉や社会はよくならない。良くするための時間もつくりましょう」とまとめられました。それぞれの報告に、相槌と振り返りがありました。

（写真：山本政幸・工藤英知、写真編集・コメント：下野祇園）

【ひろばトーク】

原発にたよらない福島を、次世代にのこすために 佐藤彌右衛門 6

●特集● 第20回社会福祉研究交流集会 in おおさか

フォトレポート・集会1日目 10

対米関係から日本の支配構造、平和、国民のいのちとくらしをどう見るか

孫崎 享 12

リレートーク——いのちと平和を守るために——

松村健彦、社浦宗隆、山重洋子、相原久美、森松明希子、石川康宏 16

フォトレポート・集会2日目 20

【第1分科会】困っている人に寄り添い、権利が保障されるしくみにつなげよう

大塚 牧子 22

【第2分科会】迷いを確信に変え、運動を進めていく 益田 洋平 24

【第3分科会】子どもの未来を照らすのは人と人とのつながり 松永 俊一 26

【第4分科会】子どもが大きくなっても、支えられる保育園でありたい 鈴木 恵 28

【第5分科会】障害当事者として、決意を新たに 今口 雅博 30

【第6分科会】だれもが「人並みの付き合い。ができる国へ 浅賀 洋子 32

【第7分科会】やっぱり福祉って素敵。だから、続けていきたい！ 上杉 徳明 34

【第8分科会】「維新」の流れは福祉・保育の分野になじまない 肥田 智子 36

基礎講座——社会福祉が見えてくる、わかる勉強会 38

福祉のひろば井戸端会議 40

【なにわ福祉探訪】生野と朝鮮の歴史と文化交流にふれる 井上 友民 42

排除しないまち・釜ヶ崎を歩き、感じた 楠尾 薫 44

【集会に参加して】社会を変える力が現場を守る 武南千賀子 46

知を力に福祉の担い手に！ 吉田 雅世 47

社会福祉研究交流集会にはじめて参加しあらためて思うこと

澤田 透 48

クラウン「土曜日の天使達」のみなさんからお手紙が届きました！ 49

●トピックス●

総合社会福祉研究所第26回定期総会補足報告 黒田 孝彦 50

●連載●

フォーラム 障害のある人たちの老いとうどう向き合うのか 植田 章 56

あれから3年……釜石・東日本大震災を記録する会代表

八、仮設・被災者の願いを行政に 前川 慧一 58

相談室の窓から D男さんの思いを探って（その4） 青木 道忠 60

わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」 早川 一光 62

育つ風景 子どもの笑顔 清水 玲子 64

いっばいっばいの挑戦（20）人生の最期を豊かに 繁澤 多美 66

映画案内 『少女は自転車にのって』 吉村 英夫 68

現代の貧困を訪ねて 障害者の追い出し事件を考える 生田 武志 70

なにわ銭湯見聞録（拾九） ラッキー植松 72

いただきます！ 簡単だけど本場の味！ タンドリーチキン せんごくの里 74

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ 川口モトコ 77

福祉のひろば

2014年11月号

●表紙の絵●
神門やす子



●カット●
川本 浩

みんなのポスト 54 / 今月の本棚 81 / 福祉の動き 78

●グラビア● 第20回社会福祉研究交流集会 in おおさか

次世代にのこすために

あいづ
会津電力株式会社

代表取締役社長

さとう
佐藤

や え も ん
彌右衛門さん

二〇一一年三月一日以降、東京電力福島第一原子力発電所による未曾有の原発事故により、福島の人々は放射能汚染と向き合わざるをえない状況に追い込まれています。

東京電力と福島県の「契約」は破綻はたんしました。原発は地震であれ津波であれ、絶対に事故を起こしてはならなかったのです。東電と原子力開発を進めてきた国は、補償・廃炉・安全な土地の復活へ気の遠くなるような費用と年月を費やして、責任を取らなければならぬ必然があります。

福島の脱原発はイデオロギーではありません。

福島県議会は脱原発を選択し、「原子力に依存しない、安全で持続的に発展可能な社会づくりを目指し、新しい福島を創る」と決議しました。このことを念頭に、この国のあるべき未来について有志とともに勉強会、講演会、シンポジウムを開催し、度重なる議論をして参りました。この議論を通じて、私たち自身が原発の危険性を見過ごし、原発の暴走を許してしまった責任を、次世代には負担させないことを確認しました。そして、福島県内の電力エネルギー需要を、再生可能なエネルギーのみでまかなうことを可能にする体制を作り上げることを理念とし、会津電力株式会社を設立することと致しました。

福島県は、原子力発電を使わなくても、水資源の豊富な会津の水力発電の能力で十分



原発にたよらない福島を、

さとう やえもん

合資会社大和川酒造店代表（九代目）、一般社団法人ふくしま
会議理事、いいたてままでの会代表、一般社団法人会津自然エ
ネルギー機構理事 ホームページ <http://www.aipower.co.jp/>

すぎるほどの電力供給が可能です。猪苗代湖や只見川・阿賀川水系で約三八〇万キロワット毎時の発電力があります。これだけで、福島県全域の全使用電力一五四万キロワット毎時をまかなってあまりある量です。地域独占の発電会社に占有されている発電目的の水利権が戻れば、会津地域の食料とエネルギーの自給率は一〇〇%をはるかに超えるものとなります。今後、会津電力株式会社は県内の再生可能エネルギーとして、水力だけでなく、太陽光発電、森林資源を利用した木質バイオマス発電および熱利用、山間の未開の水力、土地改良地内の灌漑用水を利用した小水力、地熱（バイナリー）、風力や雪の利用研究を促進して、地域分散型の安全で安価なエネルギーを供給することで会津地域から福島県全域、そして日本全体のエネルギーの供給に貢献することを目指しています。

私たちは、会津の豊かな自然に守られて歴史を重ねてきました。会津全域は、国内有数のゆたかな穀倉地帯であり、水資源、森林資源、地熱など豊富な天然の資源に恵まれています。また、自立した経済を構築し、独自の社会教育・文化圏を作り上げてきました。

地域みなさんとともに会津の力を結集して、会津電力株式会社を興していきたいと考えます。どうぞご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

—全国のなかまのみなさん、大阪のみなさん！ 8月30日・31日は
大阪から社会福祉再生の狼煙を上げましょう！—と行われた

第20回社会福祉研究交流集会 in おおさか



誌面報告特集版

大阪をはじめ、全国から625名が参加されました。第1日目エル・おおさかエルシアターでの心温まるパフォーマンスと孫崎さんの講演、現場からの熱いメッセージのリレートークの全体会。2日目は分科会、フィールドワーク、基礎講座と多彩な取り組みが行われました。誌面を通してこの感動と学びを掲載します。

現場と研究者が一堂に会して、社会福祉の研究交流を行う社会福祉研究交流集会は、第二〇回の節目を迎えました。集会事務局をになう総合社会福祉研究所のある大阪で開催され、大阪の社会福祉関係者が実行委員会をつくり、社会福祉再生の狼煙を上げようとたくみしました。これまで二〇回の中でいちばん多い、六二五名の参加です。

一日目の全体会で、集会実行委員長の浜岡政好はまおか まさよしさん（佛教大学名誉教授、総合社会福祉研究所副理事長）は、今回の集会テーマである「生活を変える、福祉を変える、社会を変える——いのちと平和を守るために——のテーマに込めた集会の位置と役割を、あいさつで述べました。オープニングでは、岡大介さんおかだいすけ（カンカラ三線）、「土曜日の天使達」（かがやき神戸ぐりいと）が登場。記念講演は孫崎亨さん（元外務省国際情報局長、講演テーマは「対米関係から日本の支配構造、平和、国民のいのちとくらしをどうみるか」）。リレートーク「い